

目的 人工照明は自然光とちが、て、物を見る際その環境条件等により種々の影響をあたえてゐる。今日、照明と物の見之方に関する研究も各方面で進められてきてゐるが、被服学の分野でも特に最近の傾向として既製品の進出がめざましく、それを購入する立場から被服デザインの構成などに重要な問題とは、てゐる。今回の研究は従来からの Landolt ring を視標とした実験に続くもので、本実験では縞模様(縞巾1.0mm~14.5mm $w : b = 1 : 1$, $w : b = 2 : 1$, $w : b = 1 : 2$, $w : b = 3 : 1$, $w : b = 1 : 3$)を視標とし、見之方と照明の関係を検討したので報告する。

方法 実験室は暗室とし、外部からの光による影響をさけ、1ヶ光燈を照射して各々の照度に調節する。背景面の照明は被験者後方より行はし、全体的な照明とする。照度の調整は、1ヶ光燈に黒紙でスリットを作り、規定照度となるようにした。背景面の照明は少くとも視野内で一様の照度を得た。

結果 (1) 縞模様の見之方は一般に照度上昇に伴は、て良くなるが、しかし高照度にはると見之方が低下する。これは人工照明による環境の変化とそれによる被験者の身体的、心理的条件の介入によるものと思われる。(2) どの縞巾も白と黒の面積の割合が等間隔のものより2倍、3倍と大きくなるほど見之方は良くなる、てゐる。(3) 縞模様を見る際の照度は縞の割合、材質、周囲、背景の色ほど環境条件により違いはあるが、 5×10^2 (LX) 程度の照度が望ましい。